

あの時の感覚を。

盛岡商業高等学校 三年 堀合 令祐

夢とは、形になるものだけではない。

私の夢とは大人になっても「わくわくする気持ち」を持ち続けることである。

幼少期のころの私は、運動会の前夜、「負けたくない」、「どうやって走ればいいのか」等、眠りにつけなかった。当時の夜眠れないほどのあの感覚、「わくわく感」は今でも鮮明に覚えてる。

大人に近づくにつれ、私は学業に追われていった。毎日、自主学習や課外をこなしていくなか、努力し成績は上がっていったが、心の中の「わくわく感」をいつしか感じられなくなっていく。それに気づいた私は、何とも言えぬ喪失感と淋しさに包まれていた。

将来、私はいわゆるエリートや金持ちになりたいとは思わない。いや、なれるのであれば、それに越したことはないに決まっている。だが、私は心の中の豊かさを持ち続けるため、未知なることへの挑戦、経験をしたい。

その夢をかなえる第一歩がまだ見ぬ発展途上国への予想不能な旅である。もちろん、危険を伴うこともあるだろう。不便なことや、食事のままならないなど、ひもじい思いをするかもしれない。しかし、ピンチをチャンスに変えるのも、自分の力を試すことで切り抜けることも「わくわく」の第一歩なのだと考える。文化や食生活、習慣の違いも尊重しつつ、日本のように同調圧力に縛られることもなく、発見と感動を探し求めてみたいのだ。現地で出会う人々の一期一会を大切に、日本の良き文化を教えてみたい、また私の知り得ない文化と一緒に共有してみたりする経験を私はしてみたいのだ。

その夢を叶えるには、自身の夢について常に念頭に置くことが大切だ。まだ見ぬ世界について、好奇心を持って情報を収集する。想像を働かせる。世界を知る。その情報を収集する行為は、いつしか来る夢の実現のための準備だ。そして、その準備は叶う瞬間の感動を何倍にも膨れさせてくれる。だから、私は動き出す。自分の夢を叶えるために。

誰もが一度は味わったことがあるであろう、「わくわく」した経験。脳や神経が作動し、心から湧き上がるような幸福感。いつしか忘れてしまった、童心に帰るような感動。気持ちの高鳴り。想像できないこと、想定してこられなかったことに一歩踏み出すことは、勇気が必要だが、それらを乗り越えた時の達成感はずっと、「わくわく」の絶頂になるはずだ。

そのような夢を持ち続けられる自分でありたい。自分に備わっている将来の可能性が広がっていくことを考えると、「わくわく」を求め続けられるのだ。私は、これからも求め続けていく。そして、またあの時の感覚を再び味わいたい。